

2020年基準 消費者物価指数（大津市）

2021年（令和3年）7月分



消費者物価指数は今月公表の数値より

2020年基準指数に改定されました。



(令和3年8月20日公表)

この資料は、総務省統計局が作成、公表している消費者物価指数のうち、大津市の消費者物価指数についてまとめたものです。

消費者物価指数は、今月公表の数値より、2015年基準指数から2020年基準指数に改定されました。

基準改定の概要

1 改定の趣旨

消費者物価指数は、家計の消費構造を一定のものに固定し、これに要する費用がどれだけ変化したかによって物価の変動を表しています。しかし、消費構造は、新たな財およびサービスの出現や嗜好の変化などによって変化するため、消費構造を長い期間固定すると次第に実態と合わなくなってしまいます。そのため、基準時などを一定の周期で新しくする「基準改定」が行われ、指数の計算に採用する品目とそのウエイト（家計の消費支出金額に占めるその商品の割合に応じてつけられる重み）が定期的に見直されます。

消費者物価指数の基準改定は昭和30年（1955年）基準への改定以降、5年に1回、西暦年の末尾が0または5の年に合わせて行われています。

2020年以降の指数は、2020年基準で再計算されています。

2020年基準以前の指数は、時系列比較が可能となるように、2020年を100とする新基準指数への接続指数という形で表されています。

2 主な改定内容

(1) 指数基準時の改定

指数の基準時およびウエイトの参照年次が、それぞれ2015年から2020年（ウエイトについては2019年および2020年基準）に改められました。

(2) 品目の改定

指数に採用する品目について、家計消費支出における重要度が高くなった品目が追加され、重要度が低くなった品目が廃止・統合されました。

この結果、2020年基準指数に用いる品目数は、**582品目**となりました。

追 加： 30品目（シリアル、冷凍ぎょうざ、収納ケース など）
廃 止： 28品目（もち米、室内時計 など）
統 合： 10→5品目
名 称 変 更： 10品目

(3) ウエイトの改定

2020年基準の消費者物価指数の計算に用いるウエイトは、従来どおりであれば、更新する指数の基準年次と同じ2020年の家計調査結果等を用いて作成するところですが、2020年基準の指数の計算に用いるウエイトについては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、2019年および2020年の平均1か月間1世帯当たり品目別消費支出金額を基に作成されています。ただし、生鮮食品（生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物）は、品目ごとに月々の購入数量の変化が大きいため、家計調査による2019年および2020年の品目別消費支出金額のほか、2019年および2020年の月別購入数量を用いて月別に品目別ウエイト（生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物の類ウエイトについては毎月一定）が作成されています。

(4) モデル式を用いる品目の指数計算方法の見直し

「航空運賃」や「電気代」、「通信料（携帯電話）」など一部の品目は、料金体系が多様で価格も購入条件により異なっているため、品目ごとに典型的な利用事例をモデルケースとするなどにより設定した計算式（モデル式）を用いて、月々の価格指数が算出されています。

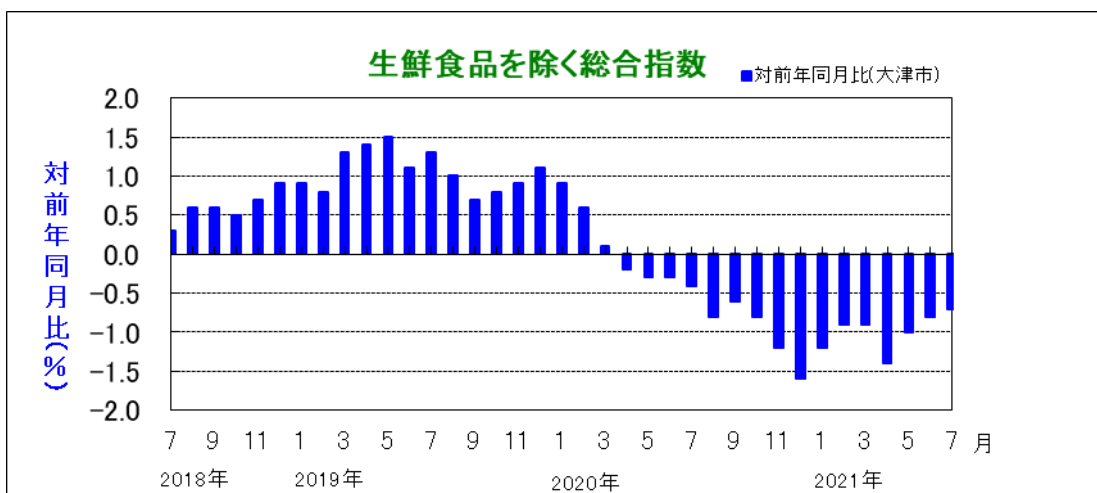
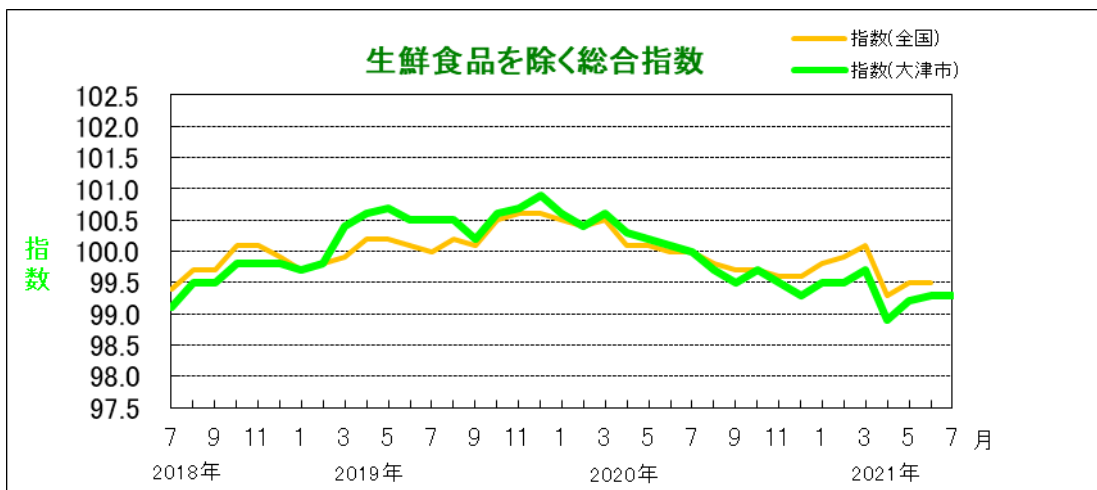
2020年基準改定では、モデル式の精度の維持向上に必要な改定を行うほか、モデル式を用いる品目（モデル品目）の統合、追加等が行われました。

2020年基準においてこれらのモデル品目は、74品目となっています。（追加は5品目）



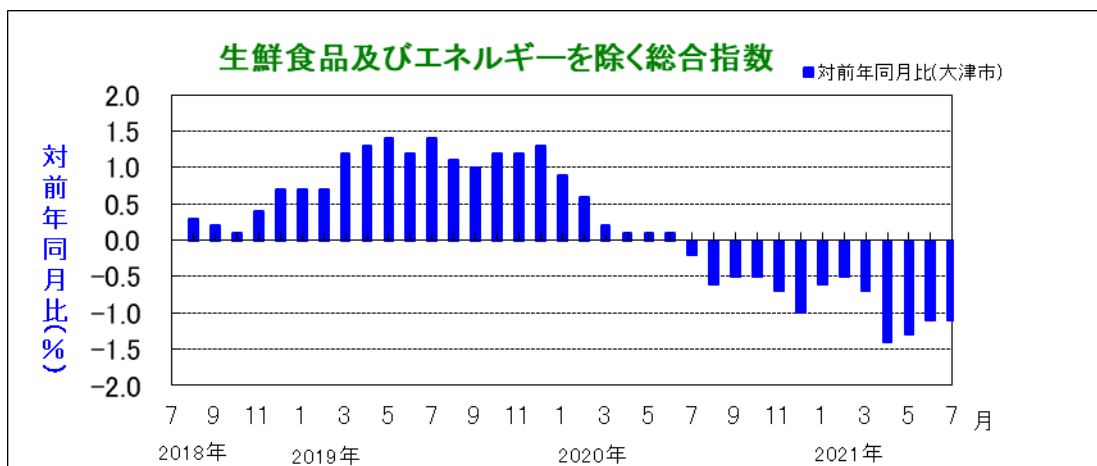
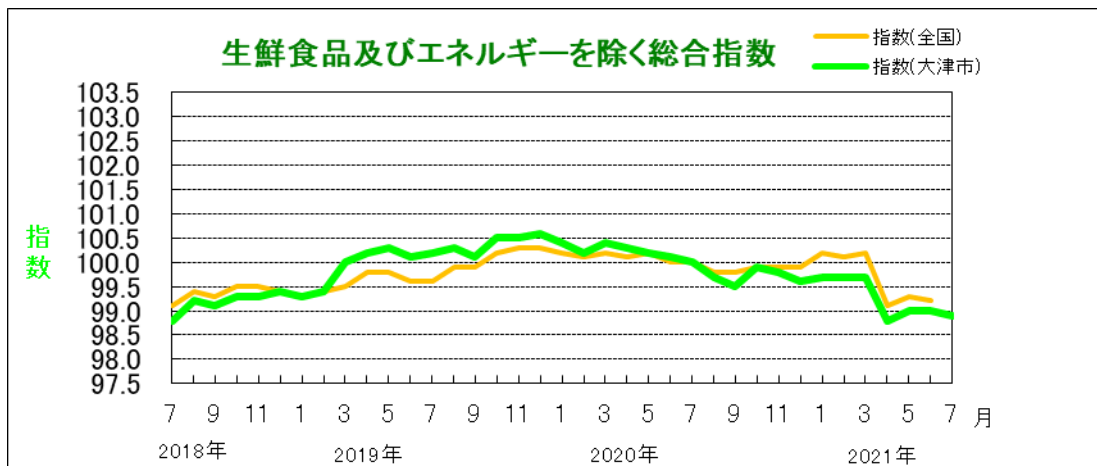
今回の改定に関する詳細につきましては、
総務省統計局のホームページ (<https://www.stat.go.jp>)
統計データ「消費者物価指数（CPI）」をご覧ください。

3. 生鮮食品を除く総合指数と対前年同月比の推移



※「生鮮食品」…生鮮魚介・生鮮野菜・生鮮果物

4. 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数と対前年同月比の推移



※「エネルギー」…電気代、都市ガス代、プロパンガス、灯油、ガソリン

☆全国における消費者物価指数の概況は総務省統計局のHPにより公表されています。
 総務省統計局消費者物価指数（全国）→ <https://www.stat.go.jp/data/cpi/>

5. 10大費目指数と前月・前年同月比および寄与度

2020年=100

区 分	指 数	対前月		対前年同月	
		上昇率(%)	寄与度	上昇率(%)	寄与度
食 料	99.4	-1.1	-0.31	-0.8	-0.21
住 居	101.0	0.2	0.03	1.0	0.17
光 熱 ・ 水 道	100.0	0.1	0.01	-0.8	-0.05
家具・家事用品	99.4	-1.4	-0.05	0.0	0.00
被服及び履物	96.8	-3.4	-0.13	-0.6	-0.02
保 健 医 療	99.3	0.2	0.01	-1.2	-0.06
交 通 ・ 通 信	95.1	0.9	0.14	-5.1	-0.85
教 育	99.3	0.1	0.00	0.3	0.01
教 養 娛 楽	102.8	1.3	0.14	2.4	0.23
諸 雑 費	101.5	0.7	0.04	1.2	0.07

* 寄与度：総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

6. 前月との比較

総合指数は99.4で、前月と比べて0.1%下落しました。中分類指数の主な項目をみると、教養娯楽サービス(2.0%)、通信(1.8%)が上昇し、肉類(-4.3%)、シャツ・セーター類(-11.1%)等が下落しました。

生鮮食品を除く総合指数は99.3で、前月と比べて横ばいでした。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は98.9で、前月と比べて0.1%下落しました。

● 上昇した中分類指数の主な項目（寄与度順）

教養娯楽サービス[教養娯楽]	(+)	2.0%
通信[交通・通信]	(+)	1.8%

● 下落した中分類指数の主な項目（寄与度順）

肉類[食料]	(-)	4.3%
シャツ・セーター類[被服及び履物]	(-)	11.1%
家事用消耗品[家具・家事用品]	(-)	8.0%
生鮮果物[食料]	(-)	5.5%

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品(生鮮魚介・生鮮野菜・生鮮果物)については、小分類指数です。

7. 前年同月との比較

総合指数は、前年同月と比べて0.7%下落しました。中分類指数の主な項目をみると、**教養娯楽サービス**（4.3%）、**自動車等関係費**（2.2%）等が上昇し、**通信**（-26.0%）、**肉類**（-5.7%）が下落しました。

生鮮食品を除く総合指数は、前年同月と比べて0.7%下落しました。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は、前年同月と比べて1.1%下落しました。

● 上昇した中分類指数の主な項目（寄与度順）

教養娯楽サービス[教養娯楽]	(+)	4.3%
自動車等関係費[交通・通信]	(+)	2.2%
設備修繕・維持[住居]	(+)	3.5%

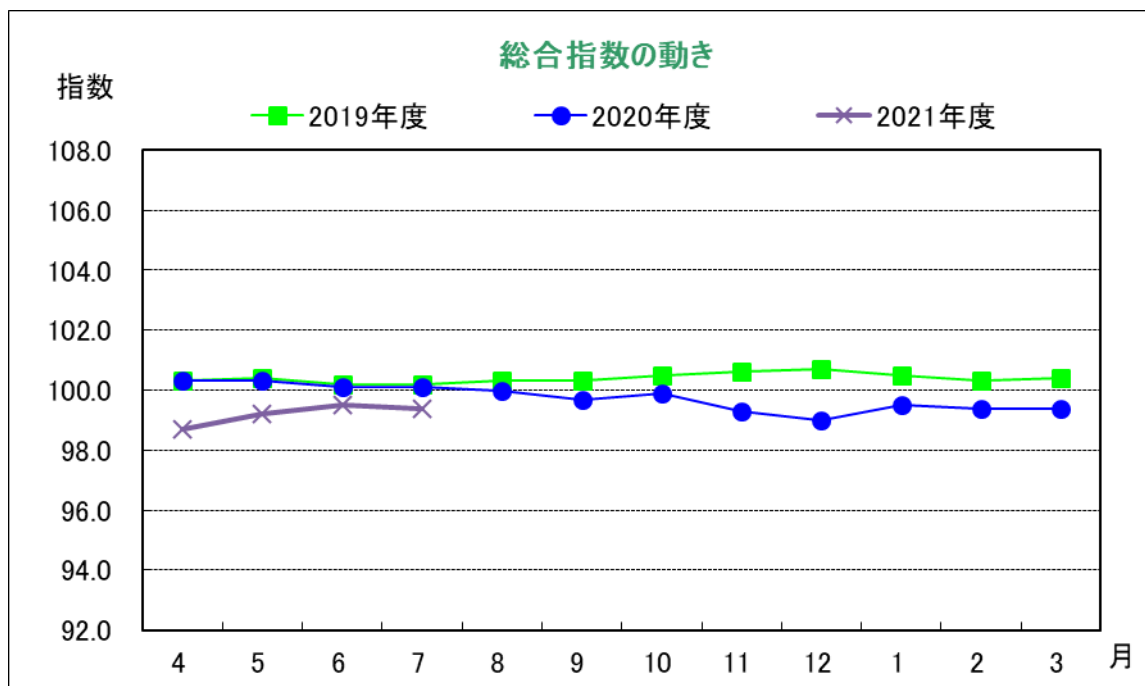
● 下落した中分類指数の主な項目（寄与度順）

通信[交通・通信]	(-)	26.0%
肉類[食料]	(-)	5.7%

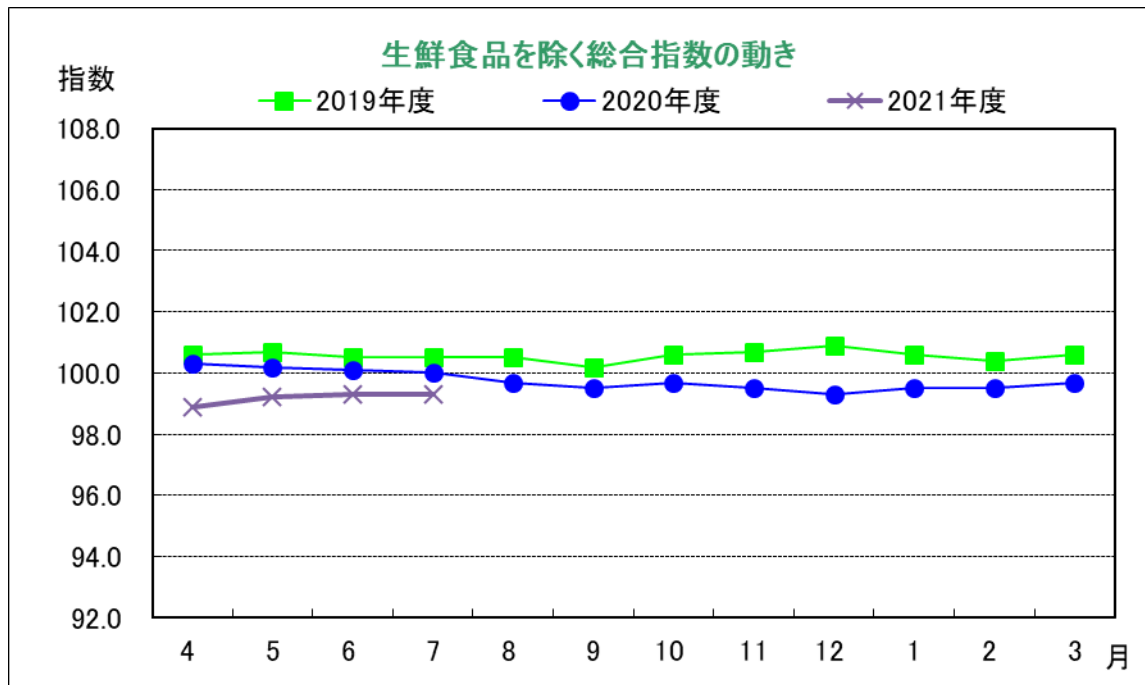
注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年同月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品（生鮮魚介・生鮮野菜・生鮮果物）については、小分類指数です。

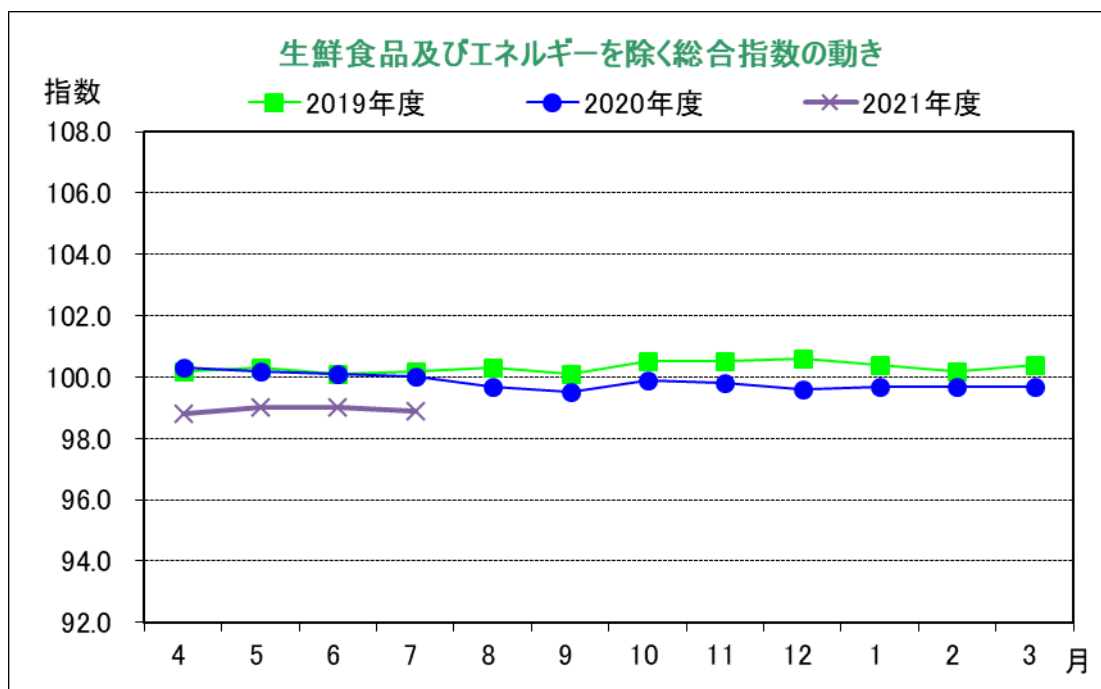
8. 総合指数別の年度比較



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2019年度	100.3	100.4	100.2	100.2	100.3	100.3	100.5	100.6	100.7	100.5	100.3	100.4
2020年度	100.3	100.3	100.1	100.1	100.0	99.7	99.9	99.3	99.0	99.5	99.4	99.4
2021年度	98.7	99.2	99.5	99.4								

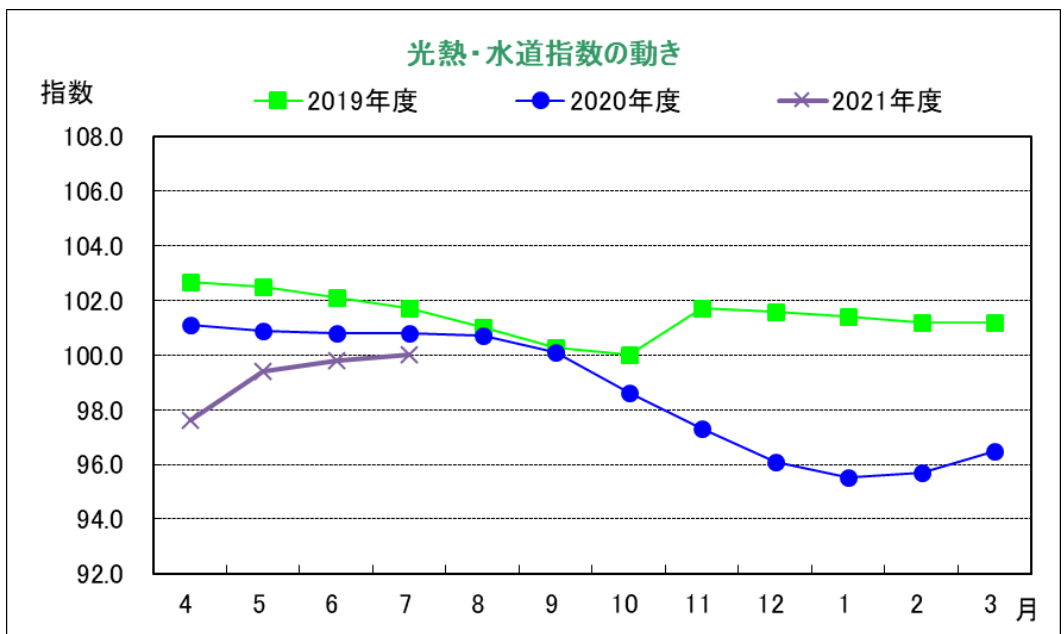
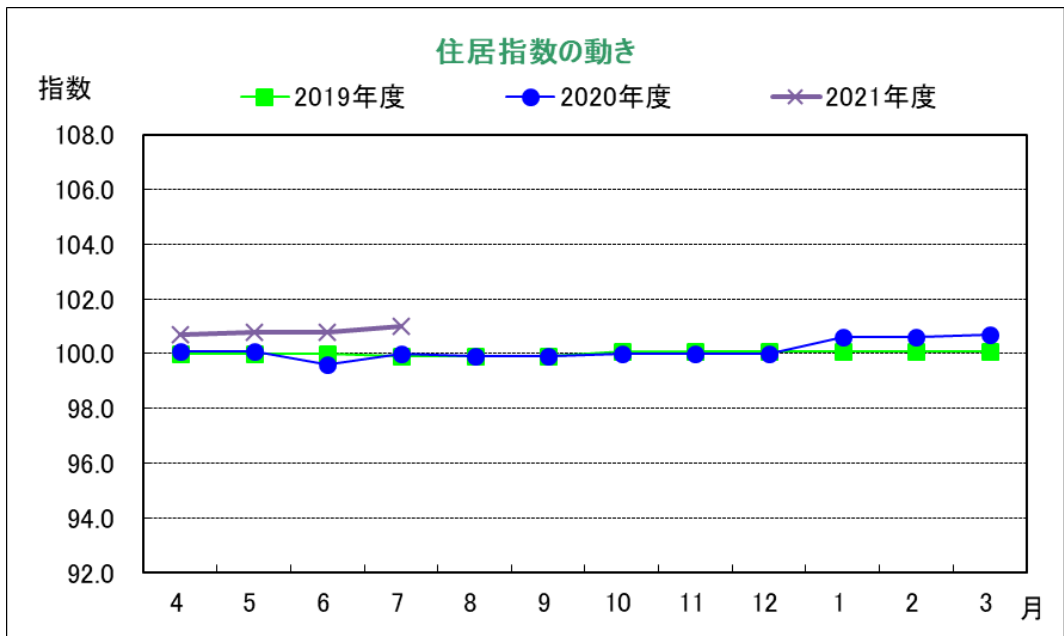
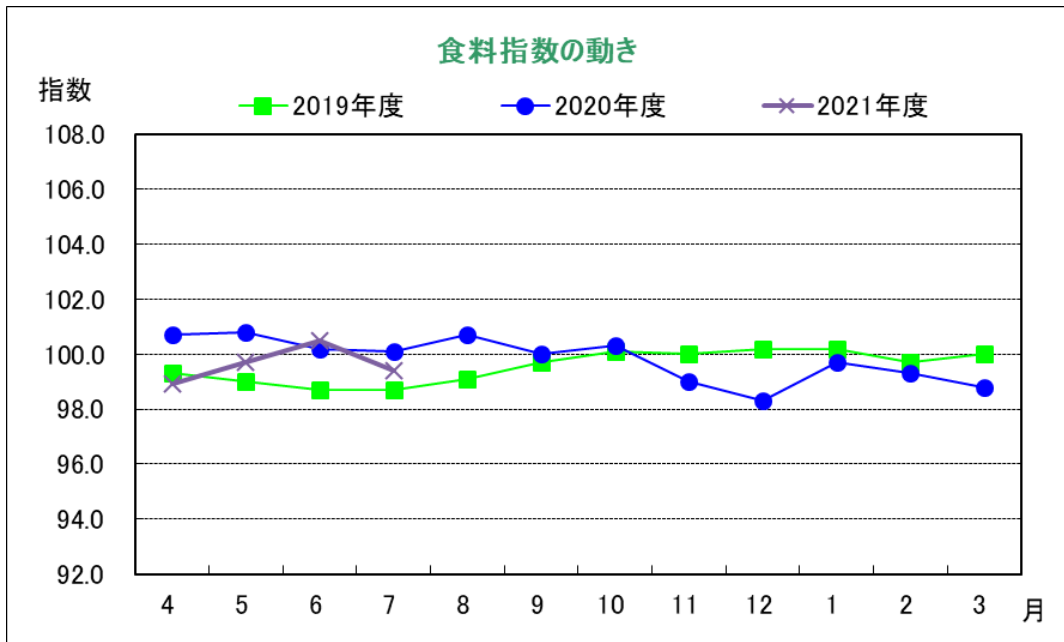


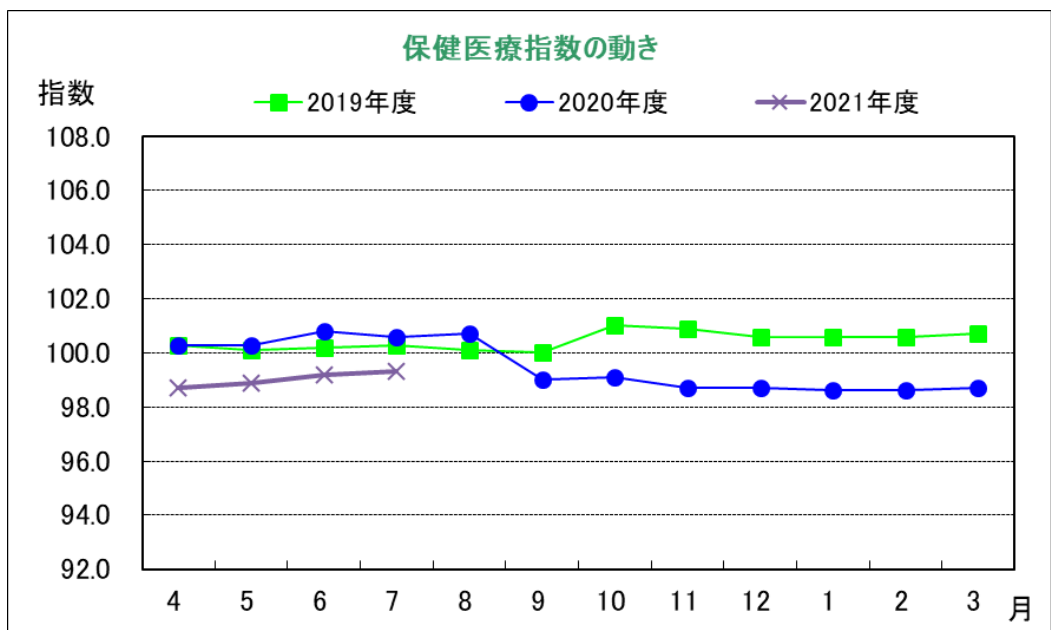
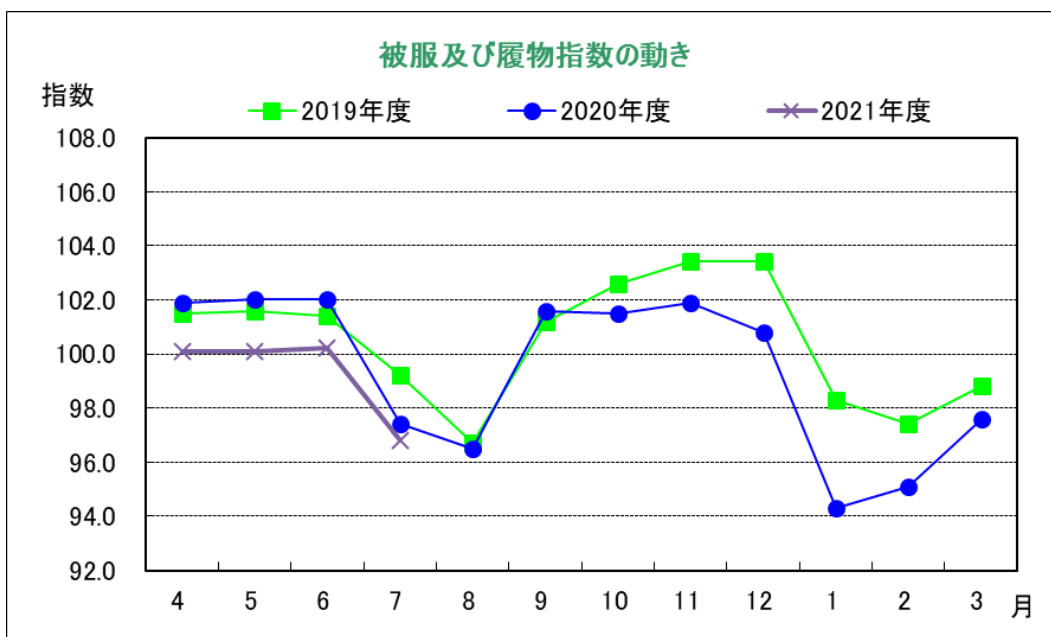
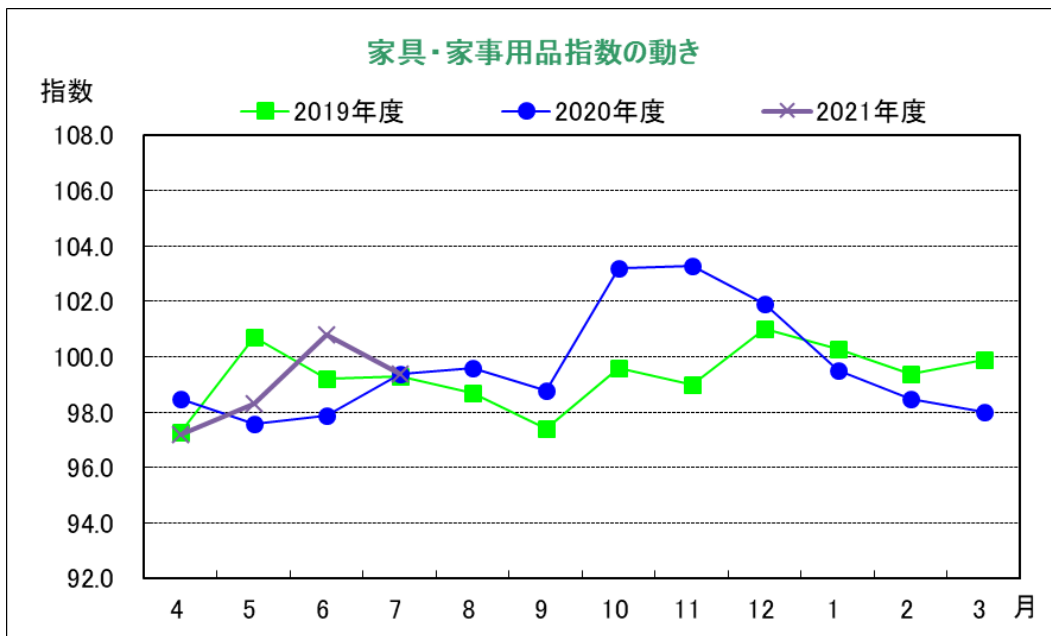
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2019年度	100.6	100.7	100.5	100.5	100.5	100.2	100.6	100.7	100.9	100.6	100.4	100.6
2020年度	100.3	100.2	100.1	100.0	99.7	99.5	99.7	99.5	99.3	99.5	99.5	99.7
2021年度	98.9	99.2	99.3	99.3								

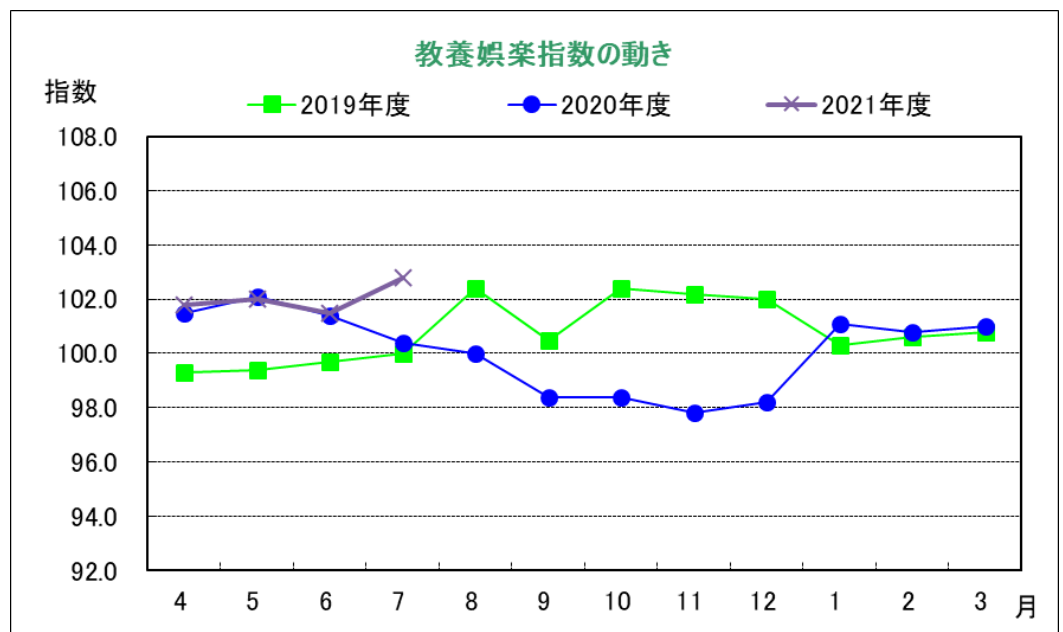
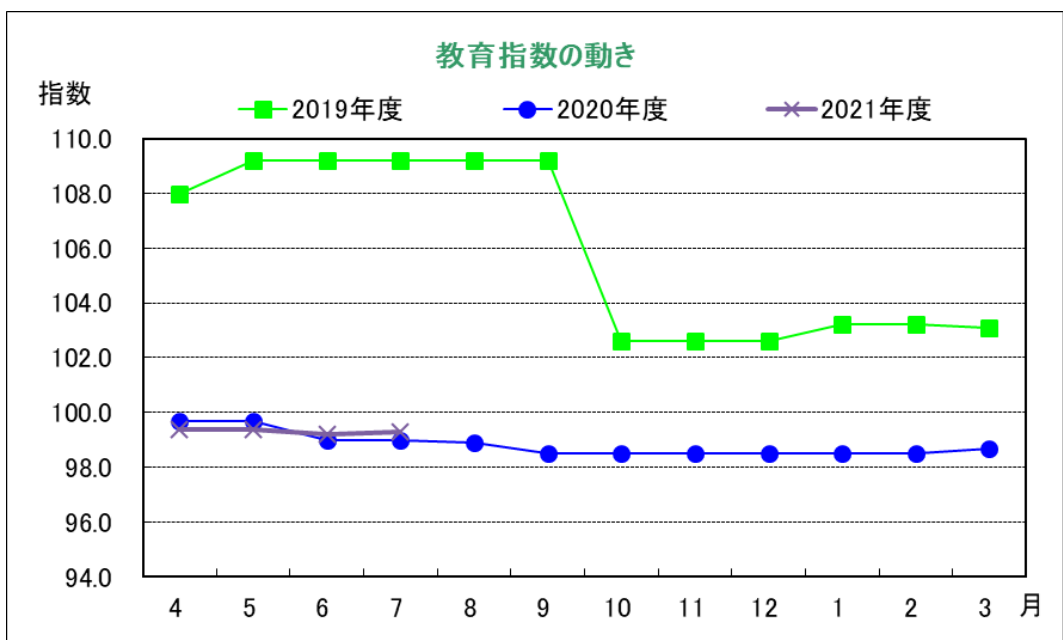
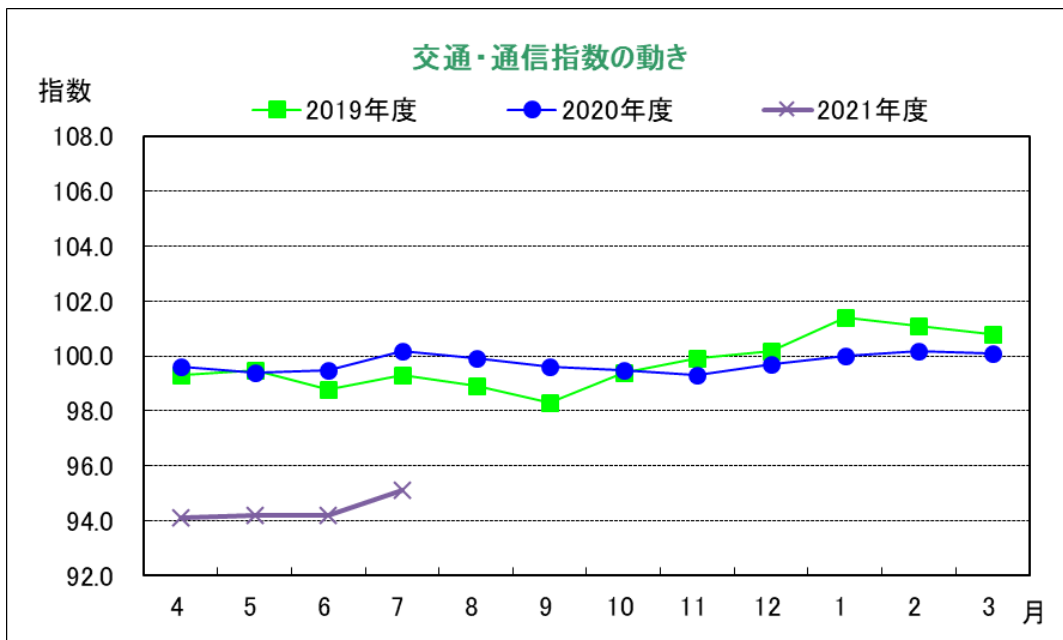


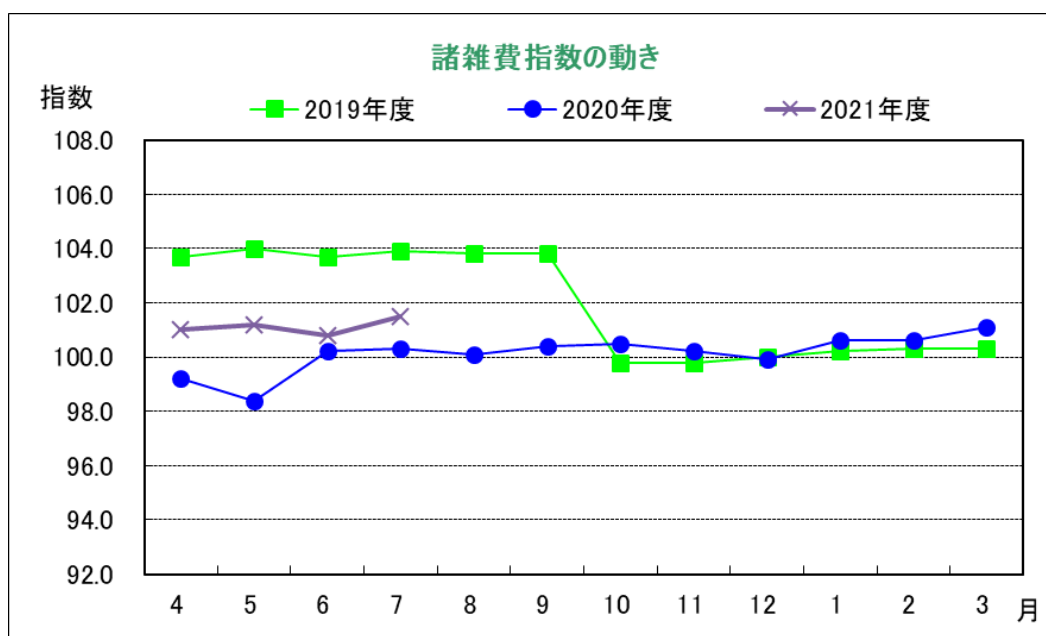
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2019年度	100.2	100.3	100.1	100.2	100.3	100.1	100.5	100.5	100.6	100.4	100.2	100.4
2020年度	100.3	100.2	100.1	100.0	99.7	99.5	99.9	99.8	99.6	99.7	99.7	99.7
2021年度	98.8	99.0	99.0	98.9								

9. 10大費目別の年度比較









【参考】

消費者物価指数とは

消費者物価指数は、日常生活で私たち消費者が購入する各種商品（財やサービス）の価格の動きを総合し、平均的な物価の動きをみるために作られるもので、国民の消費生活にとって最も身近な指数です。日常購入する食料品、衣料品、電気製品、医薬・化粧品などの財の価格のほかに、授業料や家賃、理髪料、バス代などのようなサービスの価格の動きも含まれます。

10大費目とは

指数計算に採用する品目は、世帯が購入する多数の財・サービス全体の物価変動を代表できるように、家計の消費支出の中で重要度が高いこと、価格変動の面で代表性があること、さらに、継続調査が可能であること等の観点から選定された581品目に、持家の帰属家賃1品目を加えた582品目です。これらを大分類したものが10大費目です。

この資料は総務省統計局が作成、公表している全国の消費者物価指数のうち、大津市の消費者物価指数についてまとめたものです。

【 次回資料提供予定 】 令和3年(2021年)9月24日(金) 午前10時